

日光市  
公共施設マネジメント白書

平成24年6月

日光市

## はじめに



平成18年3月20日に2市2町1村の合併により誕生した日光市では、合併を行財政改革の最大の機会と捉え、「日光市行政改革大綱」、「日光市集中改革プラン」及び「日光市行政改革プラン」を順次策定し、行財政改革に積極的に取り組んできました。

こうした取り組みの一方で、社会環境の変化、市民ニーズの多様化などに応える形で、教育文化施設、コミュニティ施設、観光施設等様々な公共施設の整備を進めてきたことから、現在、その当時に建設された公共施設の大量更新への対応が大きな課題となっています。

これら公共施設の多くは、経年による施設の老朽化や設備、機能の低下が進んでおり、今後、本格的な大規模改修や建替えが集中する時期を迎えることとなります。しかし、人口減少や超高齢社会の進行に伴い、大きな経済成長が見込めない状況において、公共施設を現在の姿のまま維持し続けることは、市政経営に大きな負担となり、ひいては真に必要な行政サービスにまで影響を及ぼしかねないことが予測されます。

そこで、市が保有し管理運営している公共施設について、全体像を明らかにするとともに、その機能や配置状況、利用状況や稼働状況、また施設運営に要する経費や施設の老朽度等について実態を把握することが重要と考え、その基礎的な資料となる「公共施設マネジメント白書」を作成いたしました。

この白書では、市の保有施設を重要な資産の一つとして捉え、その現状を様々な角度から整理・分析した上で、公共施設を通じた行政サービスの現状と課題を明確化しています。

今後、この白書を活用し、次の世代に負担を残さない公共施設のあり方について、市民の皆様のお声をお聞きしながら、改善及び有効活用に向けた計画の策定につなげていくとともに、選択と集中の視点に立った、より効率的、効果的な市政経営に取り組んでまいります。

平成24年（2012年）6月

日光市長 斎藤 文夫

第1章 日光市の概況の把握	1
1 市の概要	3
2 市の人口状況	10
3 市の財政状況	20
4 市の職員数の推移	30
5 産業及び観光の状況	32
6 市の現況から見える課題	36
第2章 市が保有する財産の状況	39
1 保有する公共施設の状況	41
2 公共施設の建替え・改修等にかかるコスト試算	52
3 インフラ資産のコスト試算	54
4 投資的経費の今後の見通し	55
第3章 用途別実態把握	57
1 コスト情報とストック情報の的確な把握	59
2 公共施設の建物総合評価	60
3 公共施設の配置状況	62
4 主な施設の実態把握	63
(1) 庁舎等及び窓口業務	63
(2) 文化会館等施設	78
(3) 美術館等施設	94
(4) 産業系施設	109
(5) 観光施設	119
(6) 福祉施設	157
(7) スポーツ施設	169
(8) 図書館	188
(9) 公民館	206
(10) コミュニティセンター等施設	225
(11) 集会等施設	239
(12) 小学校・中学校	261
(13) 保育園	275
(14) 放課後児童クラブ	289
(15) 市営住宅	303

第4章 地域別実態把握	315
(1) 今市地域	318
(2) 日光地域	327
(3) 藤原地域	335
(4) 足尾地域	343
(5) 栗山地域	348
第5章 保有資産の有効活用	355
1 課題等のまとめ	357
2 資産の有効活用の必要性	360
3 今後の取組み	361
用語集	363

※1 本白書では、推移を除いて「平成22年度」データを基本に調査を行っています。

※2 本白書では、次のような端数処理をしています。

- ・ 文章中の合計数値は、「億円」「万円」で記載しているため、グラフ等の数値と一致しないことがあります。「約」を付けずに標記している場合があります。
- ・ 図及び表のデータ数値は、端数処理をしているため、合計と一致しない場合があります。